内閣府本府政策体系に掲げる
令和8年度実施施策に係る
ロジックモデル・事前分析表

政策名	遺棄化学兵器廃棄処理
施策名	遺棄化学兵器の廃棄処理の実施
担当部局・ 作成責任者名	遺棄化学兵器処理担当室 参事官　井谷　哲也
評価実施時期	令和5年度（1年目評価） 令和10年度（最終年度評価）

ロジックモデル

評価期間：令和5年度～令和9年度

解決すべき問題・課題

我が国は、「化学兵器の開発、生産、貯蔵及び使用の禁止並びに廃棄に関する条約（平成９（1997）年４月29日発効）に基づき、中国における遺棄化学兵器を廃棄処理する義務がある。

施策の概要

化学兵器禁止条約上の義務を履行するため、中国側と協議しながら、中国各地で発見されている旧日本軍の遺棄化学兵器について、環境と安全を最も優先しつつ、速やかに発掘・回収、廃棄処理を行う。

事業の概要（アクティビティ）	活動実績（アウトプット）	中目標（アウトカム）	施策目標（インパクト）
【ハルバ嶺事業】 ハルバ嶺（吉林省）に埋設等されている遺棄化学兵器の廃棄処理を行う。 【インプット】 予算：307億円	ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄処理を実施 ❷①	「中華人民共和国において日本が遺棄した化学兵器の2022年より後の廃棄計画（以下「廃棄計画」という。）」（令和4年10月化学兵器禁止機関執行理事会承認）を達成 ❶	可能な限り早期に中国における日本の遺棄化学兵器の廃棄を完了させる。
【移動式処理事業】 2022年12月31日現在で既にOPCWに申告された遺棄化学兵器（ハルバ嶺に埋設等されているものを除く。）の廃棄処理を行う。 【インプット】 予算：74億円	移動式処理設備を使用した遺棄化学兵器の廃棄処理を実施 ❸②		
【各地発掘・回収事業】 牡丹江（黒竜江省）、伊春（黒竜江省）、敦化（吉林省）等の中国各地域に埋設されている遺棄化学兵器（ハルバ嶺に埋設されているものを除く。）の発掘・回収を行う。 【インプット】 予算：81億円	中国各地域に埋設されている遺棄化学兵器（ハルバ嶺に埋設されているものを除く。）の発掘・回収を実施 ❹③④		

※インプットの内容は令和５年度のもの

【測定指標】
❶廃棄計画の達成状況
❷ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄数
❸移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄数
❹牡丹江（黒竜江省）、伊春（黒竜江省）及び敦化（吉林省）のうち、遺棄化学兵器の発掘・回収が完了した箇所数

【参考指標】
①ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄処理期間
②移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄処理作業日数
③各地の発掘・回収の作業期間
④各地の発掘・回収の箇所数

事前分析表（概要）

評価期間：令和5年度～令和9年度

施策名	遺棄化学兵器の廃棄処理の実施
施策目標	可能な限り早期に中国における日本の遺棄化学兵器の廃棄を完了させる。

中目標	廃棄計画を達成

現状・課題	廃棄計画を踏まえ、人員の安全確保及び環境の保護を最も優先させるとの前提の下で、可能な限り早期に遺棄化学兵器の廃棄を完了することを目指して最善の努力を払う。
令和8年度の取組	ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄処理、移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄処理及び中国各地域に埋設されている遺棄化学兵器（ハルバ嶺に埋設されているものを除く。）の発掘・回収を実施する。

廃棄計画を踏まえ、遺棄化学兵器の廃棄処理、発掘・回収を実施
（基準年度：R4年度）

廃棄計画を踏まえ、遺棄化学兵器の廃棄処理、発掘・回収を着実に実施した。
（R5年度実績）

廃棄計画を達成
（R9年度目標）

中 目 標	廃棄計画を達成
測定指標❶	廃棄計画の達成状況

測定指標の選定理由

廃棄計画の達成が、可能な限り早期に中国における日本の遺棄化学兵器の廃棄を完了させることにつながるため、測定指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標 （目標年度）	廃棄計画を達成 （R9年度）	施策の進捗状況 （目標）	廃棄計画を達成（R9年度）				
基準 （基準年度）	廃棄計画を踏まえ、遺棄化学兵器の廃棄処理、発掘・回収を実施 （R4年度）	施策の進捗状況 （実績）	廃棄計画を踏まえ、遺棄化学兵器の廃棄処理、発掘・回収を着実に実施した。	廃棄計画を踏まえ、遺棄化学兵器の廃棄処理、発掘・回収を着実に実施した。	廃棄計画を踏まえ、遺棄化学兵器の廃棄処理、発掘・回収を着実に実施した。		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

【設定根拠】廃棄計画において、ハルバ嶺（吉林省）及び移動式処理設備を使用した遺棄化学兵器の廃棄については、2027年中に完了する予定としているため、R9年度までに廃棄計画を達成することを目標に設定している。
【把握方法】他の測定指標や参考指標の実績等を踏まえて記載。

中 目 標	廃棄計画を達成
測定指標❷	ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄数

測定指標の選定理由

廃棄計画において、ハルバ嶺における遺棄化学兵器については、2027年中に廃棄を完了する予定としていることから、廃棄数を測定指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標 （目標年度）	10数万発（累計） （R9年度）	施策の進捗状況 （目標）	10数万発（累計）（R9年度）				
基準 （基準年度）	23,800発（累計） （R4年度）	施策の進捗状況 （実績）	44,405発 （累計）	69,011発 （累計）	99,768発 （累計）		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

【設定根拠】廃棄計画において、ハルバ嶺における遺棄化学兵器については、2027年中に廃棄を完了する予定としていることから、R9年度までの廃棄累計数を目標に設定している。なお、化学兵器禁止機関への申告埋設数は30～40万発であるが、これまでの発掘・回収事業で得られた知見から日本独自で埋設数を10数万発と推計している。
【把握方法】ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄数を集計。

中 目 標	廃棄計画を達成
測定指標❸	移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄数

測定指標の選定理由

廃棄計画において、2022年末までに申告されたハルバ嶺以外の遺棄化学兵器については、2027年中に廃棄を完了する予定としていることから、廃棄数を測定指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標 （目標年度）	49,147発（累計） （R9年度）	施策の進捗状況 （目標）	49,147発（累計）（R9年度）				
基準 （基準年度）	42,094発（累計） （R4年度）	施策の進捗状況 （実績）	43,750発 （累計）	49,609発 （累計）	49,610発 （累計）		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

【設定根拠】廃棄計画において、2022年末までに申告されたハルバ嶺以外の遺棄化学兵器については、2027年中に廃棄を完了する予定としていることから、R9年度までの廃棄累計数を目標に設定している。
【把握方法】移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄数を集計。

中 目 標	廃棄計画を達成
測定指標❹	牡丹江（黒竜江省）、伊春（黒竜江省）及び敦化（吉林省）のうち、遺棄化学兵器の発掘・回収が完了した箇所数

測定指標の選定理由

廃棄計画において、牡丹江、伊春及び敦化については2025年中に発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払うとしていることから、発掘・回収が完了した箇所数を測定指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標（目標年度）	3箇所（R7年度）	施策の進捗状況（目標）	3箇所（R9年度） ※他の箇所とあわせて継続実施中				
基準（基準年度）	0箇所（R4年度）	施策の進捗状況（実績）			0		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

【設定根拠】廃棄計画において、牡丹江、伊春及び敦化については2025年中に発掘・回収を完了することを目指して最善の努力を払うとしていることから、R7年度までに発掘・回収が完了した箇所数を目標に設定している。
【把握方法】牡丹江、伊春及び敦化のうち、遺棄化学兵器の発掘・回収が完了した箇所数を集計。

中 目 標	廃棄計画を達成
参考指標①	ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄処理期間

参考指標の選定理由

できる限り多くの廃棄処理期間を確保することで、ハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄数が増え、遺棄化学兵器の廃棄を推進することができるため、参考指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値（参考年度）	199日（R4年度）	年度ごとの実績値	229日	243日	257日		

参考指標の実績値の把握方法

年度ごとのハルバ嶺における遺棄化学兵器の廃棄処理期間を集計。

中 目 標	廃棄計画を達成
参考指標②	移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄処理作業日数

参考指標の選定理由

できる限り多くの廃棄処理作業日数を確保することで、移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄数が増え、遺棄化学兵器の廃棄を推進することができるため、参考指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値（参考年度）	70日（R4年度）	年度ごとの実績値	115日	226日	3日		

参考指標の実績値の把握方法

年度ごとの移動式処理設備による遺棄化学兵器の廃棄処理作業日数を集計。

中 目 標	廃棄計画を達成
参考指標③	各地の発掘・回収の作業期間

参考指標の選定理由

できる限り多くの作業期間を確保することで、各地の遺棄化学兵器の発掘・回収数が増え、遺棄化学兵器の廃棄を推進することができるため、参考指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値（参考年度）	385日（R4年度）	年度ごとの実績値	291日	339日	436日		

参考指標の実績値の把握方法

年度ごとの各地の発掘・回収の作業期間を集計。

中 目 標	廃棄計画を達成
参考指標④	各地の発掘・回収の箇所数

参考指標の選定理由

できる限り多くの箇所を発掘・回収することで、各地の遺棄化学兵器の発掘・回収数が増え、遺棄化学兵器の廃棄を推進することができるため、参考指標として選定している。

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値（参考年度）	7箇所（R4年度）	年度ごとの実績値	7箇所	4箇所	7箇所		

参考指標の実績値の把握方法

年度ごとに実施した各地の発掘・回収の箇所数を集計。

参考情報

（1）参考となる情報
・化学兵器の開発、生産、貯蔵及び使用の禁止並びに廃棄に関する条約（1995年批准、1997年発効）
・日本国政府及び中華人民共和国政府による中国における日本の遺棄化学兵器の廃棄に関する覚書（1999年署名）
・日本国政府及び中華人民共和国政府による中国における日本の遺棄化学兵器の2012年4月29日の後の廃棄に関する覚書（2012年署名）
・遺棄化学兵器問題に関する基本方針について（平成27年3月24日閣議決定）
・中華人民共和国において日本が遺棄した化学兵器の2022年より後の廃棄計画（2022年10月化学兵器禁止機関執行理事会承認）

（2）施策に関連する主な内閣府事業（開始年度）
・遺棄化学兵器廃棄処理事業経費（平成11年度）（予算事業ID：000143）

（3）施策に関連する主な他省庁の事業
・外務省：中国遺棄化学兵器問題への取組（予算事業ID：000961）